

地方会・研究会記録

第 59 回労働衛生史研究会*

日本産業衛生学会北陸甲信越地方会—その軌跡と展望—

1. 創立から定着へ

岡田 晃 (金沢大学名誉教授)

昭和 25 年 (1950) にはすでに日本産業衛生学会の地方会は関東、近畿、東海、九州などで活動し始めていたが、この地方会では組織が確立していなかった。信大小松富三男教授が地方会長に就任した昭和 33 年 (1958) の 6 月 14 日、松本市郊外の御母家温泉で創立総会、同年 10 月 26 日、多賀一郎会長のもとで第 1 回総会が富山市で開催されて北信越地方会が始まった。小松教授が 12 年、渡辺教授 (新大) が 11 年、岡田教授 (金大) 12 年と長期にわたって地方会長に就任したが、昭和 32 年 (1957) 10 月現在における 38 名という地方会会員数は、昭和 57 年 (1982) になると 237 名に増加した。第 20 回学会から各県医師会関係者が学会長に就任し、第 20 回宗玄明会長のときには参加者も 150 名を越え、それまでの最高であった。昭和 50 年 (1975) には清里で関東地方会との合同研究会を行った。時流に影響されることが少なく、地方特有の課題を追求、研究することを主体として地方から世界へと発信した。

2. 地方会 50 年の歩み

加須屋實 (富山医科薬科大学名誉教授)

地方会史を労働安全衛生法の動向に注目して、産業医が明記される前年の昭和 46 年 (1971) までの 14 年を第 I 期、すべての県に大学医学部が出揃う前年までの 6 年を第 II 期、産業医選任義務が定められる前年昭和 62 年 (1987) までの 10 年を第 III 期、産業医の専門性が明記される前年平成 7 年までの 8 年を第 IV 期、面接指導が定められる前年平成 17 年 (2005) までの 10 年を第 V 期、さらに平成 18 年 (2006) 年以降を第 VI 期に分けて概説した。特記されることに学会長が教授・大病院から医師会関係者に代わってきたことがあり、岡田地方会長の頃に始まり、地方会として衛生管理者研究会、産業看護研究会を支援してきた。研究発表も古典的な職業性疾患から過重労働・メンタルヘルスなどに比重は移っているが、職業性疾患も形を変えつつも課題になっ

ており、健康管理にかかわる演題が増えてきた。青壮年、男子から女性、高齢者労働に対象が移り、長期不景気を背景とした児童労働が課題になる事態だけは避けねばなるまい。

3. 産業保健活動の展開

野沢幸男 (新潟県労働衛生医学協会、健康診断統括部長)

はじめに、当協会を昭和 37 年に設立された藤口七智現名誉会長の職歴・活動を紹介し、当協会設立に至るまでの経緯について述べた。職員数は、設立当初 3 名であったが、今日総計 905 名、うち健診部門 557 名である。

つぎに、産業保健活動の展開と今後の課題について述べた。(1) 健康診断について：設立年度の健診総数は 1.5 万人、平成 6 年度は 86.5 万人を記録したが、最近では 70 万人台である。21 世紀はまさに予防の時代であり、一般健診における判定区分 C に対する経過検査と保健指導を徹底して行うことが今後の課題である。また、特殊健診においては、有機溶剤健診の尿中代謝物検査の有所見率が全国平均より高率であり、これに対する検討が今後の課題である。(2) 産業医・保健師活動について：産業医の出務回数や産業医の相手をする職種の実態からみても、事業所側のより一層の積極性・自主性が求められる。(3) 教育研修部の活動について：技能講習と教育講習合わせて年間約 100 回実施し、参加者総数約 6,000 人を数える。今後はメンタルヘルス対策支援なども考慮してゆきたい。

4. 北陸甲信越地方会の今後の展望

野見山哲生

(信州大学医学部衛生学公衆衛生学講座 教授)

北陸甲信越地方会を構成する 6 県では、大都市圏、特に東京都市圏と比して小規模事業場の数が多く、更にそれらに従事する労働者割合が高い。そのため専任する産業医を必要とする事業場だけでなく、産業看護職が専任雇用されている事業場も少ない。日本産業衛生学会甲信越地方会、医師会、大学、労働局 (旧労働基準局)、産業保健推進センターや企業 (企業群) と協力して、地域に根ざした人材育成と産業保健サービスの向上に寄与してきているが、大規模事業場に比し十分とはいえない。今後一層、本地方会の構成員が、衛生管理者、産業看護職、産業医を始めとした人材育成を行い、上記と一層連携し、産業保健サービス提供といった具体的貢献と、地域のニーズにあった調査研究と結果のフィードバックといった調査研究活動を行ってゆく必要がある。

*2010 年 5 月 27 日 (木)

会場：フェニックス・プラザ (福井市)

座長：岡田 晃 (金沢大学名誉教授)、

堀口俊一 (大阪市立大学名誉教授)